

保健医療サービス

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 稲田 弘子

■使用テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会(編) 『新・社会福祉士養成講座第17巻 保健医療サービス 第5版』中央法規出版 2017
◆参考テキスト	財団法人 厚生統計協会 「国民衛生の動向2015/2016」 小山秀夫・笹岡真弓・堀越由紀子編 「保健医療サービス」ミネルヴァ書房

講義概要・一般目標

本講義の構成は、大きく二つの流れがある。

一つ目としては、保健医療サービスの構成要素・ステークホルダーつまり、被保険者・保険者・保健医療機関・審査支払機関について、それぞれの構成要素を深めるとともに、お互いの関係を理解することである。

二つ目としては、医療機関に社会福祉の専門職として従事する医療ソーシャルワーカーについて、歴史的・変遷・現状を理解し、業務の内容・流れ・専門的視点及び役割についての基本的な知識を理解することである。

以上の流れを理解した上で、医療ソーシャルワーク実践における留意点である、チーム医療のあり方、多職種との連携のあり方、各疾患別の医療ソーシャルワーク実践のあり方などについて理解し、実践力を修得することを目的としている。本講義受講にあたっては、保健医療制度が我々の生活を守る重要な制度であることを身近に感じることも重要である。

到達目標

- 1)保健医療制度の概要について説明できる。
- 2)ステークホルダーの相互関係とそれぞれの構成要素について説明できる。
- 3)医療提供施設で働く専門職の役割や基本姿勢について説明できる。
- 4)病院・診療所間と地域連携のあり方について説明できる。
- 5)医療保険制度に関連した他制度について説明できる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割

この章のポイント

本章では保健医療サービス全体を概観する。先ず保健医療サービスの構成、保健医療サービスの歴史を理解した上で、昨今の医療法の改正による今日的課題について提示し、医療連携における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と診療報酬について理解する。

第2章 保健医療サービスを提供する施設とシステム

この章のポイント

保健医療サービス提供施設の施設類型を理解し、各施設類型における施設基準、診療報酬及び介護報酬の違いについて理解する。次に福祉施設及び在宅医療福祉サービスの類型と施設基準等について理解し、保健医療福祉をつなぐケアシステムのあり方について考察する。

第3章 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割

この章のポイント

本章では、医療ソーシャルワーカーの歴史を概観し、保健利用サービスの領域で必要とされる医療ソーシャルワーカーの知識、技術について理解し、身につける。さらに、医療ソーシャルワーカーの業務指針を通読し、医療ソーシャルワーク実践の実際について事例を通して理解する。

第4章 保健医療サービスの専門職の役割

この章のポイント

保健医療サービスに従事する専門職である、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士などの根拠法、養成課程、業務内容を理解した上で、事例を通して各専門職の視点と役割について理解を深める。さらに医療ソーシャルワーカーの専門性及び役割について考察を深める。

第5章 保健医療サービスの提供と経済的保障

この章のポイント

保健医療サービスにおける医療保険制度、介護保険制度、自立支援医療、公費負担医療制度などの制度体系と対象者である患者の自己負担の実際について学ぶ。さらに、患者の医療費の自己負担軽減のための高額療養費制度等、高額介護費制度、その他医療費助成制度などについて学ぶ。

第6章 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践

この章のポイント

本章では保健利用サービスの連携のあり方について理論、知識、実際について学ぶ。その上で、連携の類型、チームケアの留意点、クリティカルパスの実践と活用のあり方について理解する。特に、クリティカルパスについては、開発されつつあるパスの類型や活用の実際について理解する。

第7章 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践

この章のポイント

今後保健医療サービスにおいてキーとなるのは、「連携」である。連携の構成要素となるネットワーキングの手法や理論について学び、地域ケアネットワークの実際の事例を通して理解し、医療ソーシャルワーカーの役割と視点について考察を深める。